

鞆辺某の妻づち一人連て住吉へ詣でんと

時をふく夜あけに賊

あつたてふ

どろろをそめてをさみ中ふ

女子悲泣するも

今女がねをさう

くへん行々々々

をて下帶ひ惠之

直内うり

てー車の
あて

と昇て去る

又一人ぞ来る

又とてどてやう

事と云はるゝ事

置る衣を奪ふ

有婦人を追ふ人として

車内の衣ふく

飛そく如く家の飯り主主

西財の云々幸を以て

すなはて訴へるが

なりとて賊金いで

頃戌二月五日

頃ハ戌ノ二月五日之トゾ

柳櫻記

庚辰

彭福